

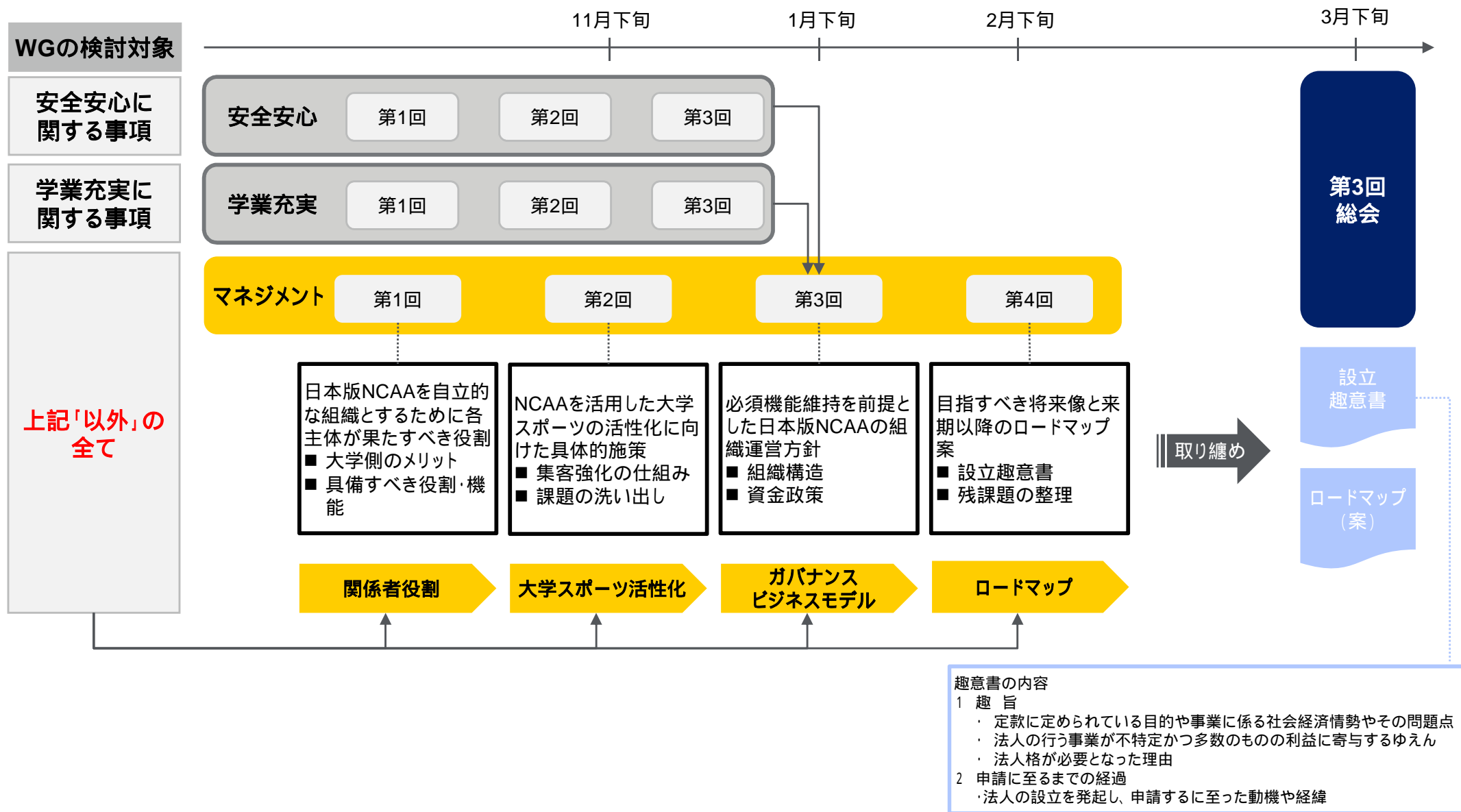
今後の進め方および本日の討議テーマ

日本版NCAA創設に向けた学産官連携協議会
第二回マネジメントWG

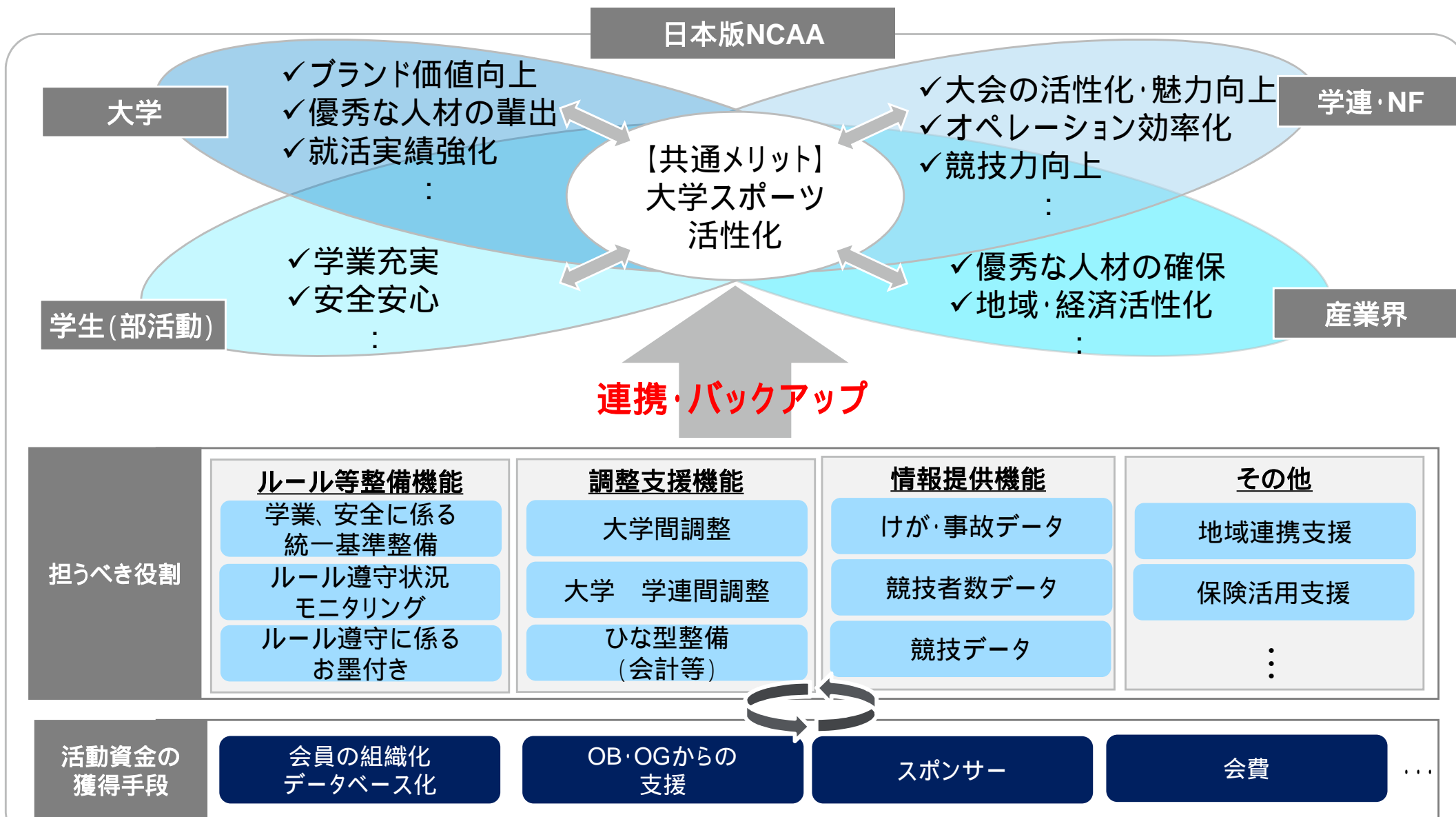
2017年11月20日(月)09時～12時

今後の進め方

2018年3月の総会における設立趣意書案の提示を目標すると、残り3回のマネジメントWGで議論すべき事項は以下と想定される。



日本版NCAAはルール等整備機能、調整支援機能、情報提供機能等を担い、関係者の取組の連携やバックアップ支援を行うことにより、大学、学生、学連・NF界等の関係者が多様なメリットを享受できるものとする。



各ワーキンググループの役割及びマネジメントワーキンググループの課題

【日本版NCAAの組織イメージ(案)】

日本版NCAA（仮称）

学業充実委員会（仮称）

学業充実WGで検討
 検討テーマ：ルール、ガイドライン、指導者、情報共有 等

安全安心委員会（仮称）

安全安心WGで検討中
 検討テーマ：ルール、ガイドライン、指導者、情報共有、表彰 等

企画委員会（仮称）

委員会（仮称）

⋮

マネジメントWGの課題【総論】

日本版NCAAの組織をどのように構築すべきか。

日本版NCAAは左のような委員会を設置する必要があるのではないか。

日本版NCAAは、学業の充実や安全安心の向上の機能以外に、大学スポーツの更なる発展に必要な機能を担う必要があるのではないか。

(個別テーマの例)

- ・大学、学連、NFとの関係の整理
- ・名称 等

マネジメントWGの課題【各論】

日本版NCAAは、大学スポーツの更なる発展のために、具体的にどのような業務を実施すべきか。

(個別テーマの例)

- ・大会の活性化、魅力向上
- ・地域連携
- ・資金獲得 等

【第一回WGにおける主な意見】

- 「箱根駅伝」は、みるスポーツとして成立しているが、大学スポーツ全体から言えば、かなり例外であり、みるスポーツとしての価値は大学スポーツにどの程度あるのか。
- 今の大学スポーツのレベルでは魅力がなくて観戦料をとるのも難しく、儲かりそうにない。
- 大学スポーツが楽しくみんな見たり、スポンサーつけるためには強くないといけない。強くないのに応援しようといっても限界があるし、放送したとしても限られている。
- 大学とOB、OGの関係性のポテンシャルが活用されていない、特定のOBは関わるが、それ以外は関わりをもたないことが多い。
- 大学にアリーナ・スタジアムを作り、そこに集まる場として学生が応援できるようなスポーツになれば、学生のためにもなるし、大学のブランド力の向上に繋がるのではないか。

等



大学スポーツの持続的な発展のためには、学生・地域住民等が観戦に行き、応援したくなるようなスポーツになっていく必要があるのではないか。

大学スポーツの観戦・応援の増加に向けて

学生・地域住民等が観戦に行き、応援したくなるような大学スポーツとして発展していくことが、母校愛の醸成や大学ブランド力の向上の観点からも重要。

大学スポーツの中でも多くの観客や応援を得られる競技・大会は一部に限られる。また、観客数が減少している大会もある。

(例)ラグビー早明戦 6.7万人(1982年) 3.2万人(2012年)

日本版NCAAが大学や学連と連携し、集客力の向上の仕組み作りを行い、大学スポーツを賑わいの場とすることができないか。

現状の課題	対 策
<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 大学スポーツの競技力の低迷、社会人スポーツとの差の広がり ✓ セントラル方式 ✓ 大会等の周知不足 ✓ 在学生、OB・OG、地域住民等の関係者の動員 ✓ 観客席の不足 ✓ 海外への人材流出 	<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ ホームカミング日の開催 ✓ ホーム&アウェイ方式の導入 ✓ SNS等を活用した広報戦略 ✓ 指導者の育成、適正配置 ✓ 観客席の設置